



鍋田念仏踊り

(市無形民俗文化財)

4月15日(月)、市無形民俗文化財「鍋田念仏踊り」が、鍋田地区の太符神社で奉納されました。

鍋田念仏踊りは、安永2年(一七七三年)に、干ばつによる水不足を憂いた上杉鷹山の命で、雨乞いをしたことが始まりとされます。雨の恵みがあるように祈る「道行き」と、雨を降らせてくれた天に感謝する「入庭」の2つの踊りがあり、

鍋田地区の念佛講保存会(大山健夫会長)が伝承活動に取り組んでいます。

踊りには地区住民や沖郷小学校4年生など約140人が参加。それぞれ青い法被とほっかむりをまとい、日の丸の扇子を手に、鼓笛隊の先導で「道行き」を踊りながら境内に入ると、大きな円を作って雨を祈願。続いて「入庭」を踊って感謝の踊りを奉納すると、賑やかな踊りにつられるように、境内を見守る桜の花びらもひらひらと舞っていました。

①「大念佛」ののぼりに続いて「道行き」を踊りながら境内に入ります②「入庭」を踊る保存会の皆さん③元気に踊りに踊った沖郷小学校4年生の皆さん

【表紙の写真】 漆山小学校入学式

市内6小学校と3中学校の入学式が4月8日(月)に行われ、小学生196人と中学生244人が新たなスタートを切りました。このうち漆山小学校では7人の新生が入学。式の間は少し緊張した様子の新生でしたが、上級生が小学校の楽しさを紹介して歓迎すると表情もやわらぎ、笑顔で学校生活をスタートさせました。

